会議概要

1	会 議 名	令和４年度　第４回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日　　時	令和５年３月 24 日(金)　午前９時 30 分から午前 11 時 45 分
3	会　　場	安曇野市役所本庁舎　４階　大会議室
4	出 席 者	磯野会長、細川副会長、水原委員、大澤委員、山田委員、小澤委員、亀井委員、川﨑委員、桜井委員、長澤委員、森岡委員　　計 11 名
5	市側出席者	山田市民生活部長、保科地域づくり課長、金子まちづくり推進担当係長、平林まちづくり推進担当主任、土橋まちづくり推進担当主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人　０人	記者　０人
8	会議概要作成年月日	令和５年３月 31 日

協　議　事　項　等

1　概要

（１）開会

（２）会長あいさつ

・平成 20 年に協働の指針ができて、以後、第１次、２次と協働の計画を策定し、取り組んできて約 15 年、今回の資料にあるアンケート結果を見てそれぞれ考えられたことがあると思う。本日も慎重審議をお願いしたい。

（３）報告事項

① 協働のまちづくりに関する市民アンケートの結果について

【ご意見等】

（委員）

・回答者の平均年齢、59.7 歳で、高い年齢の人たちが回答している傾向がある。

・社会参加に対して、積極的で社会に貢献したいと思っている人たちは、こういう自治体の調査に答える傾向がある。今回の回答者の方々は、年齢が高齢でかつ社会参加、社会貢献に対して積極的な人たちが答えている、という前提があることを踏まえて数値を解釈しないと、施策展開で間違う可能性がある。

・自治会活動への参加理由は、主体的な理由よりも、子どもがいるから、とか親が入っていたからという傾向が見られる。参加者を増やすきっかけとして、子どもを巻き込むなどの仕掛けづくりがポイントになると思った。

（委員）

・市民活動サポートセンターや、協働、自助・共助・公助についても知られていない実態を改めて感じた。

（委員）

・最後の自由意見で、沢山の細かなご意見が出ていた。協働について改めて考える必要性があると思った。

（委員）

・数字では現れない自由意見が面白かった。子どもや親などによって、行動が促されているケースが多い印象。

・子どもをきっかけにして活動に関わるきっかけができると良いと思った。また、参加できない理由に時間がない、お金がないなどがあるので、何かのついでに市民活動や協働を知るきっかけづくりが仕掛けられると幅が広がると感じた。また、若いころから市民活動に触れるきっかけを仕掛けることも必要だと感じた。

（委員）

・子どもが主になって企画するようなイベントを盛り込むことで、親や地域の人が自然に集まってくる。計画に協働の主体として教育機関が入っているが、取り組みは少ないので、具体的な仕掛けを１つ２つ入れても良いと思った。

（委員）

・市民活動に携わっている側からすれば、市民活動に色んな人が関わってもらうためにはどうしたら良いかが悩みであり、次回以降、アンケートで抽出できると良いと思った。

（委員）

・今回とは別に、市民活動団体の皆さんにアンケートを取っていただくと、具体的な悩みや要望などが見えると思った。

（委員）

・協働は大事で広げていく方向性は良いが、協働がわかりずらいので、置き換わる言葉で進めた方が良いのではないかと考えさせられた。

（委員）

・SDGs で利益を追求するだけではない民間企業も多いので、連携の仕掛けができると良い。

（委員）

・若い方への情報発信、若い方が参加できるようになれば、より良い地域づくりが進むと思った。

（委員）

・協働の必要性が社会的には高まっているにも関わらず、認知や関心は数字にすると逆にいっているところに着目している。時代に求められていることと、生きている人たちの求めているものの感覚が逆で、かけ離れている実態があるのかもしれない。

（委員）

・市民活動に参加しようとするきっかけとして、興味のある活動が高かった。やはり、自分のできること、したいことができる場所があったり、集まれる機会があったりする、そういうものを提供できれば、その後の活動に繋がっていくきっかけになるのではないかと改めて思った。

（委員）

・情報発信は難しい。これも協働でできるといいと感じた。

・キーワードとして「仲間」、よく言われるのが「居場所」と「出番」。

・若い世代が、安曇野市内に居場所と出番をしっかり確保されると、このまちを我がまちとして認識してより良くしたいと思うのではないか。

・事例として、ボランティアで行っている読み聞かせサークルは、現在若い世代にバトンタッチした。大学を出た若者たちが、「ふるさとは俺らを求めているから」と言って帰ってきてくれている。 それは、言い方を変えると、やっぱり居場所と出番だなと、さらに、その居場所と出番がどこにあるかというのを、行政が発信すると、そこに自分たちの力を使って活躍してくれるのではないか。

・ボランティアをやっている若い方は、親の世代がやっているから当たり前という認識にあるのは他の調査でもわかっている。そういう若い方たちに、居場所と出番を提供できるような情報発信

の仕組みをつくったら良いと思った。

（委員）

・これまで委員会でも先進地視察や、様々な議論をしているので、アンケートのデータはそれらを補うものとして次の施策に活用できると良い。

・公民館や交流学習センターで勉強している学生がいるので、そこで何か企画して関わりを持ってもらえるきっかけができると良い。

・先進事例では、ボランティアセンター的な情報発信拠点をスーパーに入れていたりする所がある。日常の生活の中で人々が集まるところで情報発信をしていくと効果的。

（委員）

・活動の喜び、体験実践というのは公民館で培われる。そこで、地域の大切さに気付き、社会参加の喜びを体験して、地域の役員になったり、ボランティアの参加につながる。

・アンケートでは公民館活動を見直して欲しいという意見が沢山ある。大事なのはコミュニティであり、公民館活動も抜本的に見直して、身近な生活の中にやりたいことをできるような環境づくりをしないと、役員の担い手も育たないという危機感がある。

・暮らしの中に協働がある。数人で集まって何かできるようなきっかけ、仕組みづくりが地域の中にあれば、協働が広がる。アンケートだけではわからない。

（会長）

・協働と言われ始めて 15 年位経過している中で、認知が進んでおらず、アンケート結果に虚しさも感じる。

・協働計画では市民の意識向上に取り組んでいる。計画に示した取り組みは進めているが、アンケート結果では成果が見えていない。ただし、協働という言葉は知らなくても、実際に協働をしている人は沢山いると思う。

・第 3 次計画では、施策も見直しが必要。委員会でもこれまで色んな意見が出ているので、それらを踏まえて作っていかなくてはいけない。

・サポートセンター職員が一生懸命取り組んでくれている。アンケート結果は仕方ないが、取り組んでいることは評価したい。どうしたら市民の意識を高められるか、委員会でもしっかりと考えていかないといけない。

② 市民活動サポートセンター事業実施状況について

【ご意見等】

（委員）

・サポートセンター事業で重要なのは相談支援。相談も、ただ団体や人材をつなげて終わりではなく、課題解決まで寄り添った支援、地域に入り込んでアクティブな相談体制であって欲しいと思う。そのような人材を職員だけでなく、市民が活躍できるような仕組みを提供していく必要もあると思う。

（委員）

・市民活動フェスタなどの事業に参加する親子連れなどに上手くアプローチする仕掛けができると、知ってもらえるきっかけになると思った。

（委員）

・相談支援について、困り事として相談されるまで待っていてはダメだと日頃感じている。気軽に市職員が出てきてくれるのは非常に大きいこと。サポートセンター職員がアウトリーチをやりや

すい体制であって欲しいと思う。

・行政がサポートセンター職員を務めている強みは、好事例を集めて、手引きやマニュアル、ガイドラインにするなど、市民にフィードバックする仕組み作りができるところ。

・相談支援は大事だが、それだけで終わるのではなく、相談支援から情報を収集し、そこからフィードバックして仕組みづくりに繋げること、そこまでサポートセンターに描いてもらいたい。

（委員）

・平成 28 年に市の協働コーディネーターの研修を 1 年間受けて、毎月同期の仲間と色んな話をしている。そういう座談会みたいな気楽に話す場に行政が参加されると人材とも出会えるし、色んなことが学べると思う。

（委員）

・サポートセンターが同じことをやっているだけでは、一般の方の広がりは難しいと思った。

③ 令和４年度協働事業事例集について

【質疑・意見等】

・特になし

～～～～～　休憩　～～～～～～

（４）協議事項

① ワーキンググループの検討結果について

【質疑・意見等】

（会長）

・ワーキンググループの意見が集約されている。サポートセンターの必要性を市民に広く知っていただきたい。検討結果について皆さんから意見をいただきたい。

（委員）

・サポートセンターとして公民館や交流学習センターの活用は難しいとの結論であったが、わかりやすく示すため、どこが良くてどこが難しいのか、定量的な評価があると良いと思った。

（事務局）

・定量的な評価はしていないが、検討結果にどう反映するか、会長と検討したい。

（委員）

・サポートセンターのハード面について整理されていて非常に良い。

・ソフト面の機能として挙げてもらいたいのが、団体の広報活動の支援。また、イベントの受付は団体個人の携帯で受けているので、センターで行ってくれると非常に助かる。

（事務局）

・今のご意見は次期計画の中で検討することとし、サポートセンターのハード面の必要性である今回の検討結果への反映は行わないこととしたい。

② 第２次協働計画の施策評価（基本方針２・３）について

【質疑・意見等】

（委員）

・あづみ野エフエムの活用について、出演していただく人材を探すのに苦慮しているとのこと。

区長も毎年交代するし、最近は文化財等の関係で面白い話が聞ける人もいる。安曇野市として啓発すると良いような情報が沢山あるので、幅広い分野でご出演いただける方を探すと良い。

（委員）

・協働コーディネーター養成講座修了生が色々関わる施策となっているが、どの段階までのコーディネーターなのか範囲がわからない。修了生の名簿をどのように活用しているのか。

（事務局）

・講座は平成 26 年度から３年間開催し、修了生は、40 名程度。講座を受けていただく際に、修了生は市民活動サポートセンターの運営に携わっていただくようお願いした。

・過去には市区長会事業でワークショップを実施した際、ファシリテーターを依頼した。また、様々な事業実施の際には、ご案内をしてきた経過がある。

（会長）

・講座だけで終わっているのが現状だと思う。その後、修了生が繋がっていない。

（委員）

・講座を受けただけではスキルは身につかないので、修了生にスキルアップの機会を提供しようと市も努力してきたと思うが、中々そういう環境が整っていなかったのだと思う。

・学んだことは無駄にはならないので、地域の中で発揮していただきたい。

・社協で朗人大学を実施している。卒業生とつながって活用していただいたらどうか。

（委員）

・コーディネーターの仕事はわかりにくい。コーディネーター同士や色んな人が参加してコーディネート事例の報告をし合うと、事例の集積にもなるし、コーディネーターの仕事、やるべきことが明確になる。

・ネットワークづくりと同時に、共育ちになる。コーディネーター機能の明確化を位置付けてもらえると、次期計画に向けて施策が向上すると思う。

（委員）

・それぞれの部署の取り組みで、市民の活動を紹介している冊子などが色々あるので、そこから情報を入手すれば、個別の取材の負担を減らせるので、継続可能なやり方について考えていただきたい。

・第３次計画に向けて新しい取り組みを増やしていくとコーディネーターが業務過多になるので、施策を精査し、必要なものは残し、不要なものは落とす判断も大事になる。

（５）その他

（事務局）

・今回で、第５期委員会は終了の予定である。来年度は計画策定の時期であり、任期は７月まであるため、事前に会議を開催する場合はご連絡する。

（会長）

・皆さんに大変お世話になった。色んなご意見をいただいたこと、感謝申し上げる。

（６）閉会